

ヨハネの福音書 (48)
「恵みの時代の霊的祝福」
ヨハ 16 : 16～33

1. 文脈の確認

(3) イエスの私的奉仕 (13 : 1～17 : 26)

①最後の晩餐 (13 : 1～30)

②階上の間の説教 (13 : 31～16 : 33)

*ぶどうの木にとどまる人生 (15 : 1～10)

*友とされた者の生き方 (15 : 11～17)

*世にある証し人の生き方 (15 : 18～16 : 4)

*助け主に導かれる人生 (16 : 5～15)

*恵みの時代における祝福 (16 : 16～33)

2. 注目すべき点

(1) ディスペンセーションが移行すると、新しい霊的真理が導入される。

(2) 律法の時代から恵みの時代への移行が起ころうとしている。

(3) 恵みの時代は、教会時代であり、聖霊が中心的に働く時代である。

3. アウトライン

(1) 悲しみから喜びへ (16～22 節)

(2) 新しい祈りの方法へ (23～28 節)

(3) 患難から平安へ (24～33 節)

恵みの時代における新しい祝福を知ろう。

恵みの時代の 3 つの祝福に着目する。

I. 悲しみから喜びへ (16～22 節)

1. 16 節

Joh 16:16 しばらくすると、あなたがたはもうわたしを見なくなりますが、またしばらくすると、わたしを見ます。」

(1) 聖霊の働きというテーマから、すぐに起こることの予告へと移行する。

①最初の「しばらくすると」は、イエスの逮捕から十字架、死に至る時間を指す。

②次の「しばらくすると」は、3 日目の復活までの時間である。

2. 17～18 節

Joh 16:17 そこで、弟子たちのうちのある者たちは互いに言った。『しばらくすると、あなたがたはわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見る』、また『わたしは父のもとに行くからだ』と言われるのは、どういうことなのだろうか。」

Joh 16:18 こうして、彼らは「しばらくすると、と言われるのは何のことだろうか。何を話しておられるのか私たちには分からない」と言った。

(1) 弟子たちには、イエスの教えは不可解であった。

- ①「しばらく」、「またしばらく」、「父のもとに行く」
- ②これは、十字架、復活、昇天の預言である。
- ③弟子たちのメシア理解とは一致しなかった。

(2) 彼らは、イエスに質問するのではなく、互いに議論し合った。

- ①この状況は、聖霊の働きの必要性と連動している (16 : 13~15)。
- ②ペンテコステ前の彼らは、霊的洞察力に欠けていた。

3. 19~20 節

Joh 16:19 イエスは、彼らが何かを尋ねたがっているのに気づいて、彼らに言われた。『しばらくすると、あなたがたはわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見る』と、わたしが言ったことについて、互いに論じ合っているのですか。

Joh 16:20 まことに、まことに、あなたがたに言います。あなたがたは泣き、嘆き悲しむが、世は喜びます。あなたがたは悲しみます。しかし、あなたがたの悲しみは喜びに変わります。

(1) 「気づいて」は、ギリシア語の「エグノウ」で、完全に知ったという意味。

- ①イエスの全能性が示されている。

(2) イエスは、弟子たちの疑問には直接答えず、別の情報を追加した。

- ①「まことに、まことに」は、厳粛な予告をする際のことばである。
- ②弟子たちは、イエスの死を嘆き悲しむ。
- ③この世 (ユダヤ人指導者層、ローマ当局、サタンの勢力) はそれを喜ぶ。
- ④しかし、弟子たちの悲しみは喜びに変わる。復活の預言。

(3) 教訓

- ①一時的な敗北に見える中にこそ神の勝利が隠されている。
- ②メシアの二面性—苦難のしもべと勝利の王を体験する第一歩である。

4. 21~22 節

Joh 16:21 女は子を産むとき、苦しみます。自分の時が来たからです。しかし、子を産んでし

まうと、一人の人が世に生まれた喜びのために、その激しい痛みをもう覚えていません。
Joh 16:22 あなたがたも今は悲しんでいます。しかし、わたしは再びあなたがたに会います。
そして、あなたがたの心は喜びに満たされます。その喜びをあなたがたから奪い去る者はありません。

(1) 悲しみや痛みが喜びに変わる例として、女性の出産が上げられる。

①赤子が生まれると、妊婦はすぐに激しい苦痛を忘れる。

(2) 弟子たちは、陣痛の時を迎えているが、やがて喜びに満たされる。

①復活のイエスに出会ったときに、それが起こる。

②その喜びは、いつまでも続く。イエスが永遠に生きるから。

(3) 教訓

①この喜びは、聖霊による復活の確信からくる信仰的喜びである。

②この喜びは、新約における内的祝福の一部であり、環境に左右されない。

II. 新しい祈りの方法へ (23～28 節)

1. 23～24 節

Joh 16:23 その日には、あなたがたはわたしに何も尋ねません。まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしの名によって父に求めるものは何でも、父はあなたがたに与えてくださいます。

Joh 16:24 今まで、あなたがたは、わたしの名によって何も求めたことはありません。求めなさい。そうすれば受けます。あなたがたの喜びが満ちあふれるようになるためです。

(1) 「その日」とは、聖霊降臨後の時代（教会時代）である。

①イエスに直接問う必要がなくなる。

②弟子たちは、イエスの代理人として、イエスの名によって父に求める。

③これまで弟子たちは、イエスの名による祈りを知らなかった。

(2) 「イエスの名によって求める」とは、「おまじない」ではない。

①イエスの意図に沿って求めるのである。

②「イエスの名による祈り」は、父なる神の御心と調和した祈りである。

③イエスの名によって祈り、答えられる経験が、信者の内的な喜びを完全にする。

(3) 教訓

①イエスの名による祈りは、新約の特権であり、教会の霊的祝福の中心である。

②この喜びは、外的状況による一時的なものではなく、持続的な内的喜びである。

2. 25 節

Joh 16:25 わたしはこれらのことを、あなたがたにたとえて話しました。もはやたとえて話すのではなく、はっきりと父について伝える時が来ます。

(1) イエスは、ベルゼブル論争（マタ 12 章）以降、たとえて教えた。

- ①一般民衆は、その意味が理解できなかった。
- ②弟子たちには、個人的な解説が与えられた。

(2) たとえではなく、はっきりと話す時が来る。

- ①聖霊降臨以降に、それが実現する。
- ②イエスの名による祈りに加え、父なる神について明瞭に教えられる特権が教会に与えられる。
- ③パウロ書簡には、神の奥義の啓示が記されている。

3. 26～27 節

Joh 16:26 その日には、あなたがたはわたしの名によって求めます。あなたがたに代わってわたしが父に願う、と言うものではありません。

Joh 16:27 父ご自身があなたがたを愛しておられるのです。あなたがたがわたしを愛し、わたしが神のもとから出て来たことを信じたからです。

(1) 弟子たちは、イエスの名によって、直接父に願うことができる。

- ①イエスが弟子たちに代わって父に願うのではない。
- ②これは、イエスの大祭司としての働きを否定しているのではない。

(2) 弟子たちはイエスを信じたので、父なる神と愛の関係に入っている。

- ①信者は、神の家族の一員として受け入れられた。
- ②その根拠は、救いの信仰告白である。

4. 28 節

Joh 16:28 わたしは父のもとから出て、世に来ましたが、再び世を去って、父のもとに行きます。」

(1) これは、イエスの使命を一文で要約したものである（原文では一文）。

- ①前半は、受肉と辱めを表している。
- ②後半は、復活、昇天、栄化を表している。

(2) これは、イエスの神性宣言である。

- ①預言者たちは神から派遣されたが、御子は「父のもとから出た」。
- ②父との本質的關係と神的起源が強調されている。

III. 患難から平安へ (29～33 節)

1. 29～30 節

Joh 16:29 弟子たちは言った。「本当に、今あなたははっきりとお話くださり、何もたとえでは語られません。

Joh 16:30 あなたがすべてをご存じであり、だれかがあなたにお尋ねする必要もないことが、今、分かりました。ですから私たちは、あなたが神から来られたことを信じます。」

- (1) 弟子たちは、イエスの教えをようやく理解した。
 - ①イエスがたとえではなく、はっきりと話したから。
 - ②この反応は、自己尚早である。
 - ③真の理解は、聖霊による啓示によって可能となる。
- (2) イエスが全能のお方であることを理解した。
 - ①イエスは、「わたしは父から出て」と言われた。
 - ②弟子たちは、「あなたが神から来られたことを信じます」と応じた。
 - ③しかし、弟子たちの告白は、十字架の衝撃に耐えるほど成熟していない。

2. 31～32 節

Joh 16:31 イエスは彼らに答えられた。「あなたがたは今、信じているのですか。

Joh 16:32 見なさい。その時が来ます。いや、すでに来ています。あなたがたはそれぞれ散らされて自分のところに帰り、わたしを一人残します。しかし、父がわたしとともにおられるので、わたしは一人ではありません。

- (1) イエスは、弟子たちの信仰の不完全さを知っていた。
 - ①「今、信じていると思っているのか」。皮肉を含んだ反語的疑問。
 - ②散らされて、イエスを一人残す時が来る。
 - ③ゼカ 13 : 7 の預言

Zec 13:7 剣よ、目覚めよ。わたしの羊飼いに向かい、わたしの仲間に向かえ——万軍の【主】のことば——。羊飼いを打て。すると、羊の群れは散らされて行き、わたしは、この手を小さい者たちに向ける。

- (2) 父がともにおられるので、イエスは孤独ではない。
 - ①マタ 27 : 46 の瞬間的断絶は別。

Mat 27:46 三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、

「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

3. 33 節

Joh 16:33 これらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を得るためです。世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました。」

(1) 「これらのこと」とは、ヨハ 14~16 章の内容である。

① ディスペンセーションが移行しつつある。

② 弟子たちは、苦難を通過する。

(2) イエスに従う者の二面性

① キリストにある。この世にある。

② この世にあっては患難がある。キリストにあっては平安がある。

③ 教会時代の普遍的特徴である。

(3) イエスはすでに世に勝った (完了形)。

① この世の支配者 (悪魔) を打ち破った。

② イエスに従う者は、勇敢な者になることができる。

③ 階上の間の説教のクライマックスは、世に対する勝利である。

結論：今日の信者への適用 (恵みの時代の 3 つの祝福)

1. 苦しみは一時的、喜びは永遠

(1) 信仰生活において、「見えない主」による試練の時がある。

(2) しかし、その「しばらく」は神のご計画の中の一時に過ぎない。

(3) 苦しみの後には、神の目的にかなった喜びが備えられている。

2. 父への直接の祈りという特権

(1) 信者は、イエスの御名によって父に直接祈ることができる。

(2) それは仲介者を必要としない、神との親密な交わりのしるしである。

(3) 祈りは、喜びを満たす手段である。

3. 勝利はすでに成就している

(1) キリストの十字架と復活は、決定的な勝利を確立した。

(2) 信者は、その勝利の中に生きている。

(3) 勝利の確信が信仰の力となる。